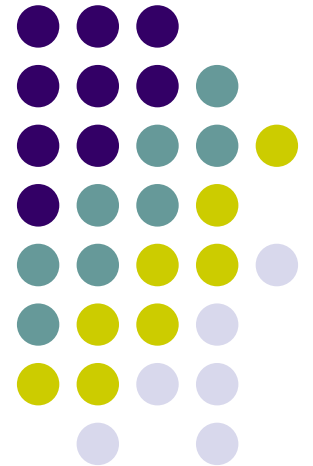


中国西南民族史

13. モンゴル王朝治下の雲南 (13世紀後半～14世紀)





モンゴル軍の侵入

1252 モンケ、クビライに西南夷討伐を命ず

- 実際はクビライの発案、中国支配・南宋攻略をめざす 側面から華南をうかがう足がかりとして

1253 チベット東南部より雲南に侵入

10月 大渡河を渡る 摩些(ナシ族)は戦わず降伏

12月 大理では高泰祥が抗戦、姚州(統矢)で敗れる

段氏は善闡に逃れる



段氏のモンゴル帰順

1254 ウリャンカダイ善闡を攻め、段興智を捕える

1255 段興智、季父信苴福とともに入覲

1256 地図を献じ、諸部を平定することを請い、
治民立賦の法を上申する
憲宗は喜び「摩訶羅嵯」の称号を与え、
信苴福には軍を領させる

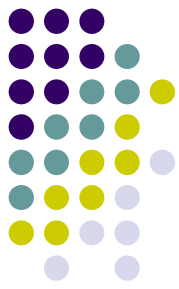
実際はすでに称していたものを認可(史料13.3)
旧大理国領に対する支配権の承認？



モンゴル遠征軍への参加

- ウリヤンカダイ雲南に19万戸府を設置
(その下に千戸・百戸)
- 僊人(白人)を徴発して「爨僊軍」を編成
1258～の南宋攻略作戦に参加

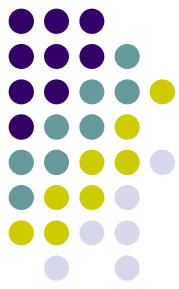
1257 興智は国任を弟の信直日に委ね、信直福とともに交趾遠征に従軍、道中で卒す(史料13.2)



モンゴル遠征軍への参加

1259 ウリャンカダイ、広西経由で長沙を目指して
進攻、鄂州でクビライ軍と合し帰北

- 段興智 (or 信苴福) らもこのとき従軍していた
可能性 (「蛮隸万人」をともなう)



段氏の復権

(1260 クビライ即位)

1260 「石長不」を大理国総管とする(史料13.4)

「信苴福」?

1261 段実(=信苴日)入朝し、「大理国主」となる
「詔して大理・善闡・威楚・統失・会川・建昌・騰越等の城
を領せしめ、各々万戸より以下皆な其の節制を受く」
(史料13.1、13.2)

この時点では旧大理国のほぼ全域を領す

1263 大理に元帥府を置く



モンゴルの雲南支配体制

1267 クビライの第五子忽哥赤(フゲチ)を雲南王とする(1271に謀殺される)

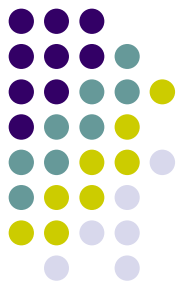
「大理等処行六部」(行政)、

「大理等処宣慰司都元帥府」(軍事)を設置

1273 (2月、襄陽の呂文煥、モンゴルに降る
= 南宋の事実上の敗北)

6月 雲南行中書省設置の命下る

賽典赤(イスラム教徒・ブハラ出身)、雲南へ



雲南行省の成立

1274 賽典赤、雲南行省平章政事に
段実を大理総管とする

1276 万戸・千戸・百戸を路・府・州・県に改める
行政中心を大理から昆明へ

- 各地に民屯を設置
- 昆明地区(滇池北岸)の水利工程
- 雲南省各地に孔廟を建て、儒学を振興



雲南王の権限増大

- 1279 賽典赤死す。
- 1280 賽典赤の子納速刺丁、雲南行省右丞に
(翌年平章政事に)
忽哥赤の子也先帖木兒、雲南王となる
- 1285 下令「事不議於雲南王也先帖木兒者、毋輒行。」
- 1290 皇長孫甘麻剌、梁王となる
(雲南王鎮大理, 梁王管轄全省)

行省は二人のモンゴル王の行動に干渉できず、
次第に有名無実化



段氏の役職

1281 段実、子の阿慶(段慶)とともに入朝

1282 征緬軍に参加中に没する (史料13.2)

- 段慶が継ぎ「大理金齒等処宣慰使都元帥」
- モンゴル時代の段氏:「大理総管」「段氏総管」と総称されるが具体的な役職はさまざま
「大理路総管」「大理金齒等処宣慰使都元帥」
「雲南行省参知政事」「同平章政事」etc...



段氏の役職

- 段慶と同時期に段忠(段実の弟)が「大理路軍民総管」となっている (史料13.5)
- 『加封孔子聖詔碑』(史料13.6):
「鎮国上將軍大理金齒等処宣慰使都元帥段阿慶」と
「明威將軍大理路軍民総管段信苴政(正?)」が併存
- 段興智(主国事)と段福(領其軍)以来
行政系統(大理路軍民総管・行省参政・平章)と
軍事系統(宣慰使都元帥)の二本立て?



段氏の役職

1328 段隆(史料13.7)、老年を理由に大理総管を辞す。子の俊が継ぐ

1328 段俊、雲南行省平章政事(長官)に
行省の形骸化の影響？

1329-30 諸王禿堅・万戸伯忽・阿禾らの反乱
天暦の内乱(モンゴル中央の皇位継承争い)の飛び火

蒙化知州段義、阿禾の平定に功績をあげ
行省参知政事となる(段俊の族弟?)



段氏の系譜の問題点

- 『南詔野史』類の表現：
 - 1331 段俊死す(在職一年)、段義が継ぐ
 - 1332 段義死す(在職一年)、「隆の子」段光が継ぐ
- 段義 は史料によって「俊の子」「隆の族弟」「俊の族弟」など記載がまちまち
- 『京兆郡夫人墓誌銘』(史料13.8):段光 の兄は段勝(中奉大参 = 行省参政)、「二子」とあるから他に兄弟はなし



段氏の系譜の問題点

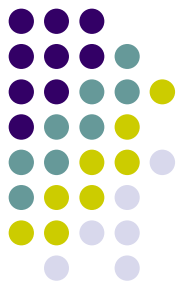
- 段勝が史料から抹殺されている
- 勝・光 兄弟が本来の総管家なら父は段俊？
- 義・功 は「襲蒙化知州」
元来総管家とは別系統(分家？)(史料13.9)
『増訂南詔野史』には段光も「朝命止授為承務郎、蒙化州知州」とあるが鈔本では「主国事」

段氏のなかで総管位の争奪が起きた可能性
(天曆の内乱前後に段義の勢力拡大)



段氏と梁王の対立

- 内乱後：行省は完全に有名無実化、
中慶路(昆明)の梁王と大理の段氏の対立状態
- 1336 段光起兵して昆明に迫る。段光の守将高蓬，
梁王に殺される
- 1337 梁王の兵が大理を襲うが段光に撃退される
- 1344 段光死す、蒙化知州段功が継ぐ

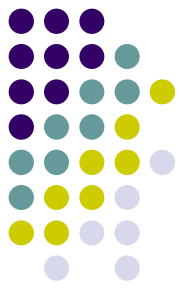


紅巾軍の入滇

1362 明玉珍の率いる紅巾軍、四川から雲南(昆明)を襲う。梁王ら逃亡

- 段功が紅巾軍を破り中慶路を回復
- 梁王奏して段功を雲南行省平章とし、女(むすめ)の阿禡(こう)を妻とする

紅巾軍撃退を機に段功(蒙化知州段家)が完全に主導権を掌握



段功・段宝と梁王

1363 梁王、段功と阿禡を殺す

1365 段功の子段宝立つ

1366 梁王と段宝の和議成立
明玉珍の紅巾軍ふたたび雲南へ

1368 明朝成立

1371 段宝、叔父段貞を遣わし明に奉表帰款
段宝死す、子の明継ぐ

● この頃からふたたび「大理国」を自称



明初の対雲南政策

- 洪武初年：雲南は梁王巴匝剌瓦尔密（バツァツワールミ）の支配下
大理段氏・麓川思氏および烏撒（威寧）・烏蒙（昭通）東川・芒部（鎮雄）「各保境土，拋地自雄」
- 明朝は軍事行動を起こさず（内治の安定優先）、頻繁に雲南へ使者をやり来降を勧める（対梁王 - 旧封の保持を認める / 段氏 - 「大理国王」号を認める）
いずれも拒絶



明朝に対する梁王の対応

1372 明の翰林待制王禕、梁王を招諭

1373 王禕、梁王に殺される

1374 故元威順王の子伯伯を遣して梁王を招諭、
従わず

1375 湖広参政呉云を遣わして梁王を招諭、
殺される。

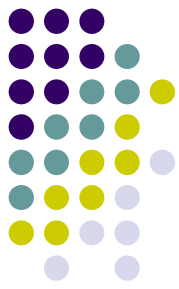


明朝に対する段氏の対応

1381 段明死す、叔父の段世が継ぐ

- 明朝に対決姿勢を示す梁王との対抗上明朝に帰款するポーズを見せる。
- ただし段氏の支配領域を保全、「外藩として」明朝に朝貢することを要求
(漢代・唐代の故事を引用) (史料13.10)

明朝には容れられず、全面的に取り潰されることになる



明朝の雲南制圧

1381 傅友徳を征南將軍，沐英・藍玉を副將軍とする明の遠征軍、雲南へ
梁王滇池へ入水自殺 (史料13.11)

1382 雲南布政使司、都司および各州県を設置
大理へ進攻、段世および段宝の二孫苴仁・苴義を捕らえる 「雲南悉平」

- 大理は明朝の派遣する流官の統治する地区に
- 段氏の一族は辺境地区の土官としてのみ存続